

Fishing Kayak

[フィッシングカヤック]

シットオントップカヤックを発展させ、ロッドホルダーやクーラーボックス置き場、漁探スペースなどを設置。カヌーと釣りが好きな人のための、近年登場したニュージャンル。

ウィルダネスシステムズ ターポン120

WILDERNESS SYSTEMS / TARPON 120

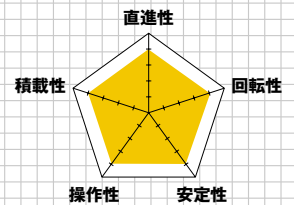
安定性が高く、無用な神経をつかわずに釣りに専念できる。
ハイバックシートも疲労軽減効果を発揮

Specifications

全長 373 × 76cm
重量 27kg
材質=リニアポリエチレン
最大積載量= 159kg
¥99,000
問モンベルカスタマーサービス
TEL06-6536-5740
www.montbell.jp



Performance Chart



清水昭夫

手元に簡単に開くハッチがあり、フィッシング中でもバランスを崩すことなく出し入れができる。数々のオプションを加え、自分仕様の艇に仕上げるのは楽しいかも

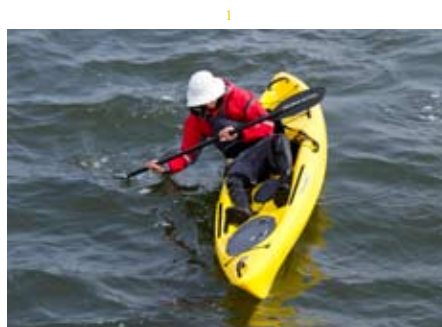


大内直紀

バウからスターンまでしっかりキールが走っているせいか、左右へのブレが少ない。多少波があっても安定している。ただ、アクティブに魚影を追いかける船ではなさそうだ



1=挙動は安定しているが、ガンネルサイドまで上体を出すとさすがにヤバイ。2=フィッシングにはこんな感じの横座りもあり。3=高さ調節可能なバックシートが釣りの疲労を軽減する。4=ハッチ内の防水性は高く、水の浸入は見られない。5=釣りをしているときに不要なバドルはこのように留めておく



「長時間釣りをしているとき、背中が疲れないのは大切。ただ、艇を操作するときは、このシートの高さは邪魔」(清水)
艇そのものの印象としては、まず「安定性が高い」(清水・大内)ということがあげられる。
「コストパフォーマンスが高く、カヤック経験のない初心者でも無理なく扱えそう」(大内)、「スライド式のフットブレイスが付いているので、バランスよく操作できる」(清水)と、釣り以外に神経をつかわなくて済むようになってきている。フィッシングカヤックに求められるのはそうしたこともかもしれない。

フィッシングカヤックは、日本では割合近年になって登場してきた概念だが、すでにアメリカではエンジン付きの船が入り込めないようなエリアにアクセスするツールとして、以前から釣り愛好家の間に浸透していた。その多くは既存のシットオントップカヤックやシットインカヤックを改造し、フィッシングの装備を追加したものだ。
ウィルダネスシステムズのターポン120は、浮力のあるシットオントップがベースとなっているので波をかぶっても問題はなく

